

■上間トーク

法則のお話

- ・

1	8	1
---	---	---
- ・

2	6	2
---	---	---
- ・

3	4	3
---	---	---

二つ目の2・6・2について・・・

- 2・・・勝ち組 自分の環境を作る人
- 6・・・浮遊層 引っ張られる人
- 2・・・負け組 絶対に伸びない人 etc...

二極性

なんでもない差なんだけれども分かれる
衛生士はぜひとも高給であってほしい

■シャープニング実習

<注意されたこと>

- ・ トゥを研ごうとしすぎてスケーラーを倒しすぎているのでトゥのとき
角度が変わっている
- ・ ティスティングするときの速度が速い

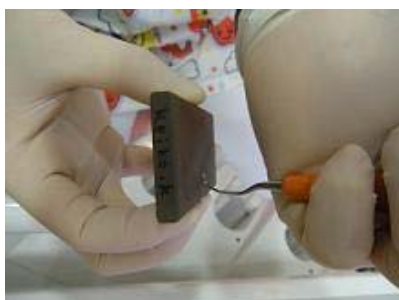
★人は小さな作業は胸元でする

ex) ボタンをつける時など

上から見るのと目の前で見るとでは角度が違ってくる

→ 目の錯覚

上から見た角度



横から見た角度



★テストスティックにおいても・・・

No.2

- ① 人差指に一番感覚（感性）がある
ふんわりと持てるかが大切である

NO!!!



OK!!!



- ② テストスティックをいかに真っ直ぐ持つか



↕ NO!!!



OK!!!



底が見えない

- ③ テスティングはゆっくり！！！！

ゆっくりしないと感じれない。

■確認テスト（前回のマネキンの実習部位）

NO.3

<注意されたこと>

- ① 7 6 | . . . 7 | の遠心はもっと回むように。
レストの場所を変える（ポジションの位置も）
スケーラーが付け根に落ちてきたら意識して戻すように

- ② 3 2 | . . . もう少し下顎を下げる
└─ スケーラーが最初から落ちてくる
倒れてくる・ねるような感じになる



NO!!!

左親指（サポート）をしっかり 添わせているだけだった



OK!!!



NO!!!



OK!!!

1 2 3 | . . . 小指が離れる

★プラークやちょっとしたポケットには
ジェントルストローク

ウィークストローク

優しく長いストローク

★歯石をとるときには

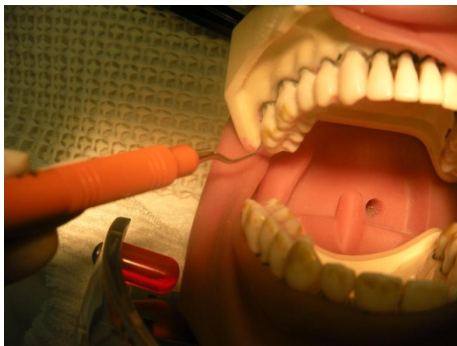
短い1ミリくらいの動きでパキッと

■マネキン実習

4 — 7 頬側面（遠心隅角から近心中央まで）

ポジション：バック
 スケーラー：G#12（ $\sqrt{6\ 7}$ ）・GA#12（ $\sqrt{4\ 5}$ ）
 モーション：ドロップング
 ストローク：縦

7 遠心隅角 → 遠心隅角に当てるのが一番難しい



遠心隅角は第一シャンクと歯軸を平行にすると
 ← 左図のような角度になる。

そのためスケーラーを持つ手は右図 →
 のような持ち方になる。



すると自然と固定の位置は
 ← 左図のように左の補助の指の上にくる
 ↓
 左人差し指の第2関節くらい



左手；中指で頬粘膜排除
 人差し指を $\sqrt{5\ 6}$ くらいに置く

★遠心偶角



★中央

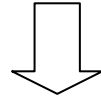


NO.5

★近心中央



※近心中央はシャープニングの角度が大事に
なってくる



歯軸と第一シャンクが平行=カッティングエッジ
ちょっと中にやりすぎるとエッジが立たず
スカスカする



」

4 5 はレストを 3 くらいに置く . . . レストの位置は変わっていく

NO.6

7— 4

頬側面（遠心隅角から近心中央まで）

ポジション：フロント

スケーラー：スケーラー：G#12（6 7）・GA#12（4 5）

モーション：ドロッピング

ストローク：縦

7 6 左手のサポート：中指で頬粘膜排除して人差し指の上にスケーラーを乗せる



5 4 左手のサポート

人差し指で頬粘膜排除

親指でサポート



＜考察・感想＞

NO.7

今回の上間スクールも大変実りある実習をしていただきありがとうございました。

前回よりも今回は約3週間も間隔が空いたことにより、自分自身の怠けてしまっていた部分、頑張っていた部分を更に明確にできたように思います。

シャープニングはどうしてもいつもトゥの部分が研げなくて、いつもなんでなんだろうと迷う日々でしたが、周りから見た眼からでは、スケーラーを倒しすぎているとの指摘を受けまた自分の迷いや、じゃあこれからどうしていけばいいのか、など新たな自分の明確な課題ができこの一ヶ月間また頑張っていきます。

次回の上間スクールも様々なアンテナをはり、もっと自分を向上させることができればと思います。

6月もよろしく願いいたします。ありがとうございました。